



## 経営(継承)のツボ

早川浩士

有限会社ハヤカワプランニング代表取締役

震災から6回目の移転  
もうすぐ3年目を迎える

「2011年3月11日の東日本大震災と原発事故による避難指示で事業所が東京電力第一発電所から9kmの距離にあったため、ご利用

に感謝の気持ちを込めて私たちのできること、高齢社会のなか、ご入居者様、地域住民の皆様の安心・安全な生活をお約束し、故郷富岡町に戻れる日まで、福島市内の介護事業所として、選ばれる事業所になれるよう努めてまいりる覚悟で

入居者や職員を伴って川内村のそば屋や、福島市内のアパートなど各地を転々と避難していたという。大玉村から6回目の移転先として福島市内に利用者18人、職員34人が引越したのは、13年8月末。ようやく、落ち着ける場所が定まったとの知らせを受け、11月下旬に足を運んだ。

## 避難者数は1万5468人

新築の建物内には、福島市民を対象にしたデイサービスと地域の集会所、地域住民と施設利用者などの交流の場として活用できる地域交流室が設けられている。グループホームも併設されているが、こちらの入居者は富岡町の住民に限定されている。

2006年4月の介護保険制度改正で創設されたグループホームは、認知症高齢者や中重度の要介護高齢者などが、できる限り住み慣れた地域での生活を継続できるように支援するサービスであり、事業者の指定や監督は市町村が担っている。

ところが、居住制限区域にある富岡町の避難者数は1万5468人(7876世帯)\*を数え、約70%

の1万1014人(5450世帯)が福島県下41市町村、残りの4454人(2226世帯)が46都道府県に分散し、帰還時期の見通しを立てられない避難生活を続けざるを得ないことになっている。このなかには、当施設の入居者や職員の数も含まれている(2013年8月1日現在)。

全国に分散した住民の窓口を担う役場事務所は郡山市にあり、いわき市、三春町、大玉村、楢葉町にも出張所などがある。

訪問の1週間前、第3回介護甲子園が開催されることもあって、最優秀賞に輝いた埼玉県の特別養護老人ホームが語った言葉を伝えた。「ナラティブは、物語という意味。人生という名の物語。利用者、一人ひとりにかけがえないナラティブがある。ナラティブの雫をたらすことで、温かい気持ちや波紋のように広がれば、大きな輪をつくることができる」

福島市の地域に溶け込みながらも、富岡町の方々が「ナラティブ」で集える場所になれないかと提案。全国にも希な地域密着型サービスが行なわれているグループホームの展開を注目し続けた。

転期に立つ経営の視座⑧  
ナラティブ(物語)

者様と職員は避難先を転々としていましたが、このたび福島市内にグループホームとデイサービスをつくり、落ち着くことができました。この体験をもとに、皆様のご期待に添うべく職員一同力を合わせ一日も早い福島県の復興のために、ご支援いただきました皆様方

## はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。1991年に独立。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に『99の言葉の杖』(日本医療企画)、『早川浩士の常在学場』(筒井書房)、『介護人財創造塾』(筒井書房)、『介護保険改正に勝つ!経営』(年友企画)、『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』(日本医療企画)など。

<http://www.hayakawa-planning.com>

ブログ: <http://ameblo.jp/hayakawa-planning/>

ございます。(以下省略)という手紙が届いたのは、13年9月のこと。

この事業所は、10年度の複数事業所連携事業で、9月、11月、12月と3度足を運んだ福島県浜北地区の富岡町にあった。

東日本大震災の直後に起きた、東京電力第一原発の事故により、

\*大震災当日の住民登録数